

りんごだより

草笛学園 2026年 (7月号)



梅雨の時期に入り、じめじめとした日が続いていますが、今日から7月が始まりましたね。雨の日は少し憂鬱に感じることもありますが、子ども達にとっては、傘をさしたり長靴を履いたりといつもと違う発見ができる特別な時間でもあります。傘に落ちる雨の音を楽しんだり、水たまりを長靴で歩いて感触を味わったり…。雨の日ならではの遊びや気づきを通して子ども達は五感を感じながら季節の変化を楽しんでいます。これからも1日1日の小さな発見を大切にしながら、梅雨の季節も楽しく過ごしていきたいですね。



“遊び”を通して生きる心

2歳までの子どもたちは、自分の内的な要求に心を動かされ、その満足を、親たちに達成してもらおうということに目が向いています。また、4歳を過ぎる頃になると、子どもたちは、最終的に、その時々^の行動の目標が達成されたかどうかというところにも目を向けるようになっていきます。主観的と客観的といった違いはありますが、要するに、どちらの場合も結果というものに心が向いているのです。

その意味では、3歳児は、目標と結果の“はざま”といったところを、文字どおり、生々しく生きているとってよいのではないのでしょうか。そうしたことが、最も如実に反映されているのが、3歳児の“遊び”における天才ぶりです。

考えてみれば、“はざま”を生きているということは、同時に心が自分の“内”と“外”に開かれていることを意味していますし、言い換えれば“現実”と“非現実”の両方に心が開かれているということも意味しています。実際、“遊び”というのは、“現実的”な原理に従っているかと言えば、必ずしもそうとは言えない、かといって“非現実的”な原理に従っているかと言えば、やはり、そうとは言いきれない、といったところに展開しているものです。

こうした点からすると、3歳児の“遊び”が、われわれの想像をはるかに越えて、次々と移り変わり、まるで魔術的な独創性とでも言えるような力で豊かになり広げられていくというのも、よく分かるような話になってくるはずで

(中略)

実際に、子どもの“遊び”を“遊び”らしく“体験”できるよう条件を整えるということは、並大抵のことではありません。3歳児の心が、3歳児らしい心でいられるようあたたかく見守ってやらなければいけませんし、“遊び”がちゃんと生き生きしているよう、しっかりと心の息吹きを注ぎこんでやらなければいけません。さらには、“現実”でも“非現実”でもないところに展開する“遊び”の場面にちょうどふさわしい内容の題材を提供してやらなければなりません。

こうしたことは、結局のところ、先生であれ、親であれ、3歳児と関わる大人の側が、どれだけちゃんと“遊び”の心を自分自身の体験感覚として、生きたままそなえているかということにかかってくると言わざるをえないようです。

実際問題としては難しい課題になってしまいそうな感じもしますが、3歳児の心を考える時、彼らの体験を十分に促進するためには、われわれ大人の側が、どれだけ“生きた環境”になれるかが問われるとってまちがいなさそうです。

参考文献：中村きみ 編著『3歳児一園における3歳児保育のすべてー』

次回のりんご教室は…

りんご教室① … 8月4日（火） 9：50～11：30 「みずあそび」

りんご教室② … 8月18日（火） 9：50～11：30 「みずあそび」

の予定です。

★ 工事の影響で、時間が変更になっています。

持ってくるもの：水筒・シューズ・必要に応じて着替え・タオル・水着
水泳帽はどちらでも大丈夫です。テントは設置しますが、多少、陽が
当たる部分があるので、帽子があるとよいと思います。

※保護者の方もぬれる可能性があるので必要に応じて着替え・タオルを持参してください

参加される皆様へ ～ご協力をお願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園まで連絡をください。
- ・参加費はいりません。製作やクッキングの活動時には材料費として100円を集めさせていただきます。必要時には、『りんごだより』にて案内します。
- ・活動は、主に、草笛学園ゆうぎしつで行います。
- ・水分補給のため、お茶か水を持参してください。（ジュース類は控えてください）
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合はご相談ください。
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前には必ず爪を切ってきてください。

